

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

宮城県栗原市 栗原市立若柳病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	6	-	ド訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
67,117	8,581	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

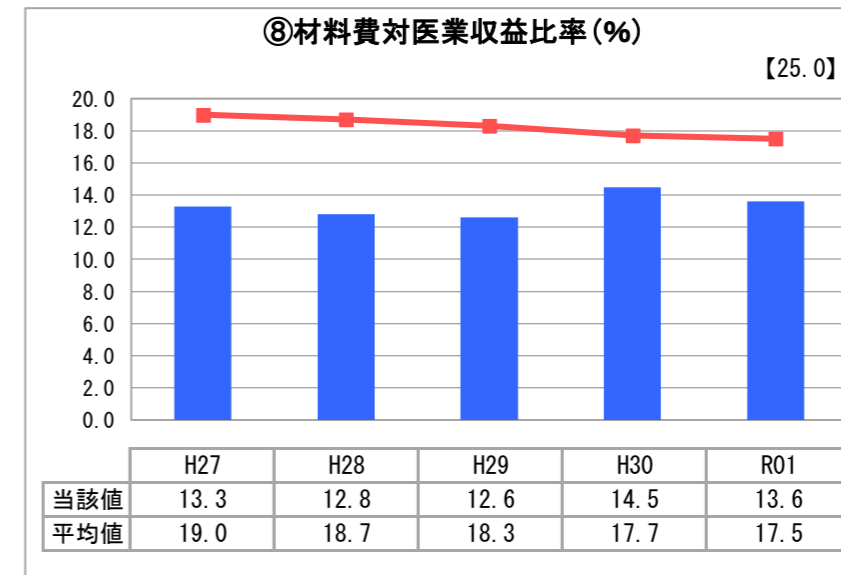
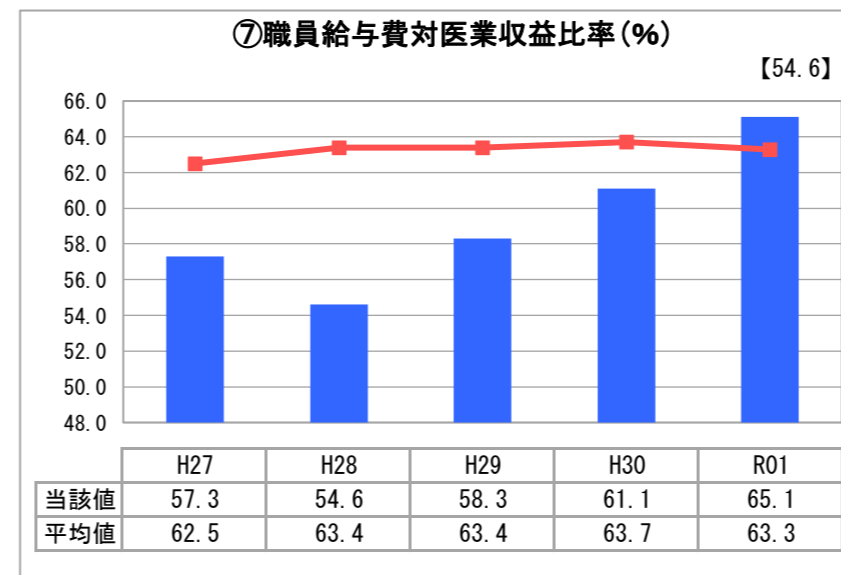
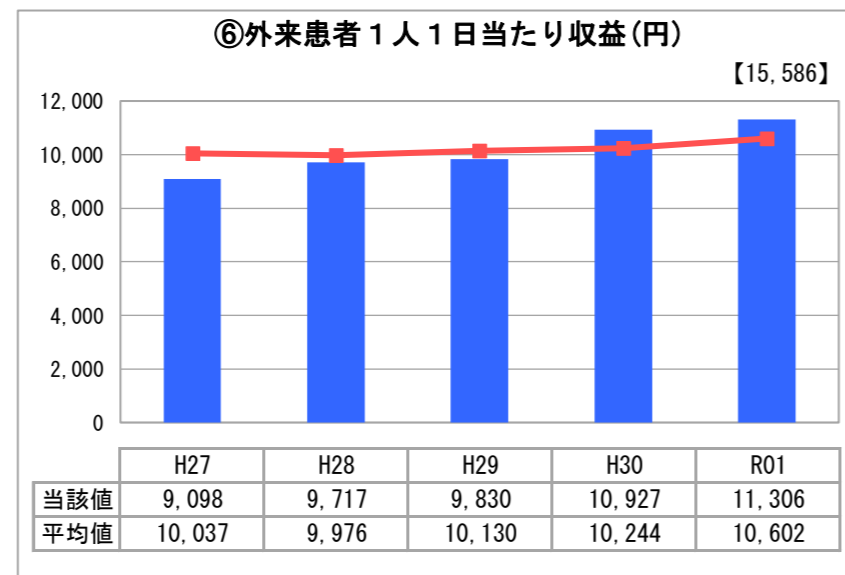
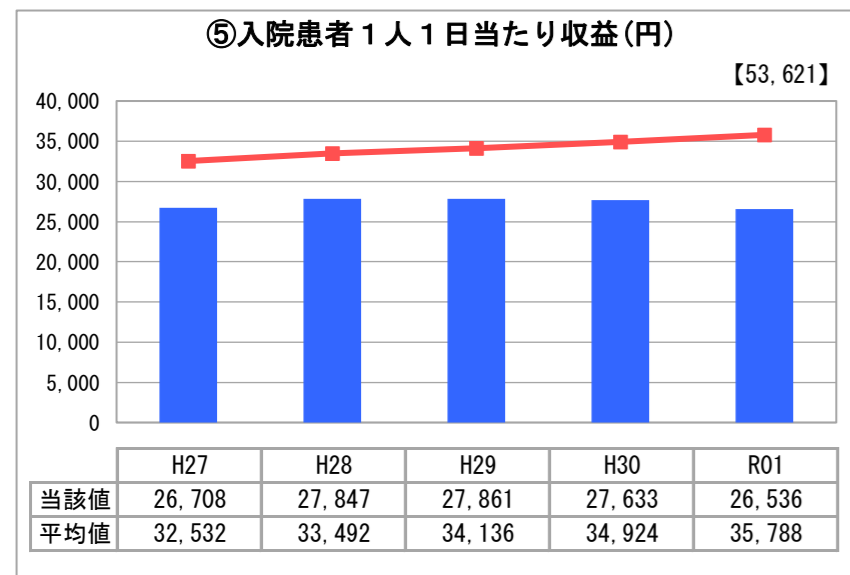
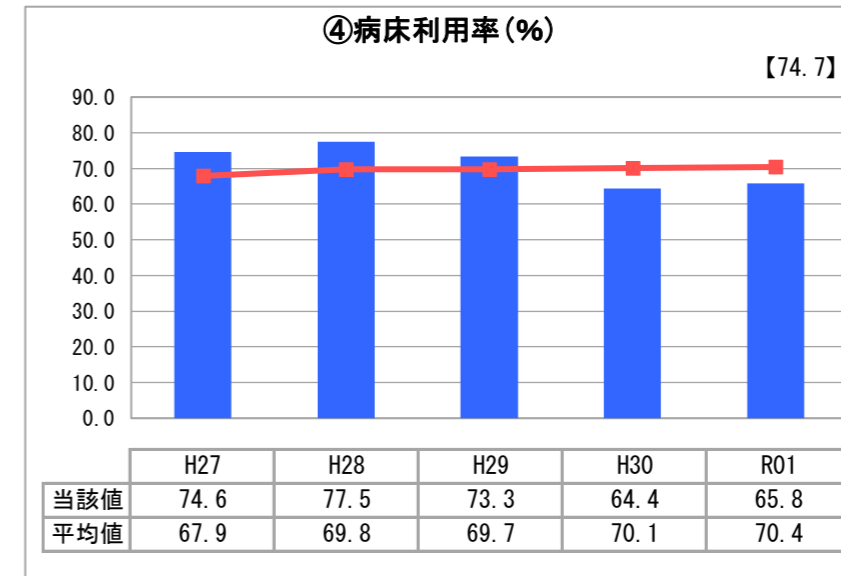
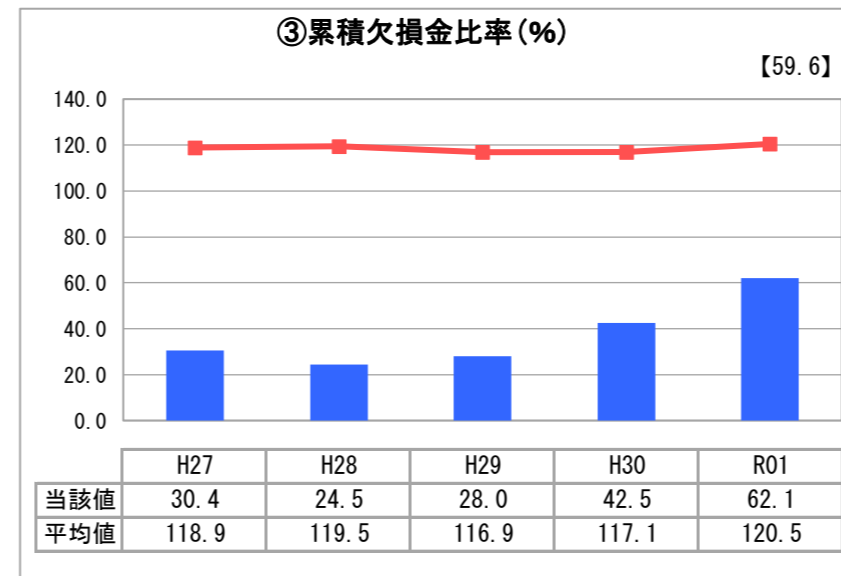
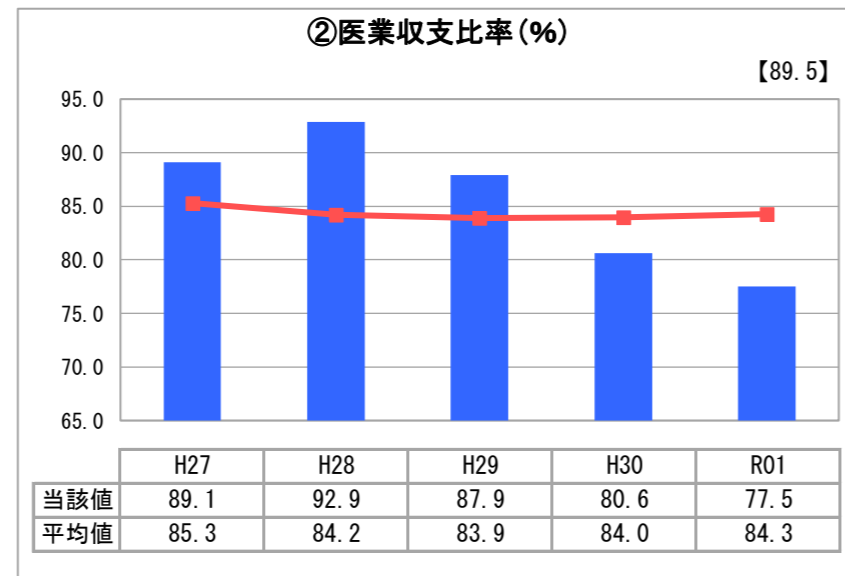
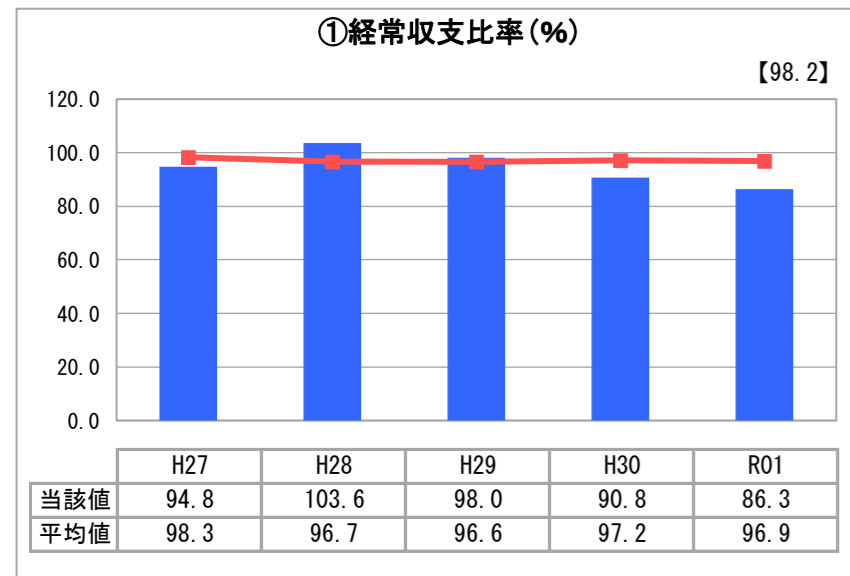
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
90	30	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	120
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
75	27	102

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

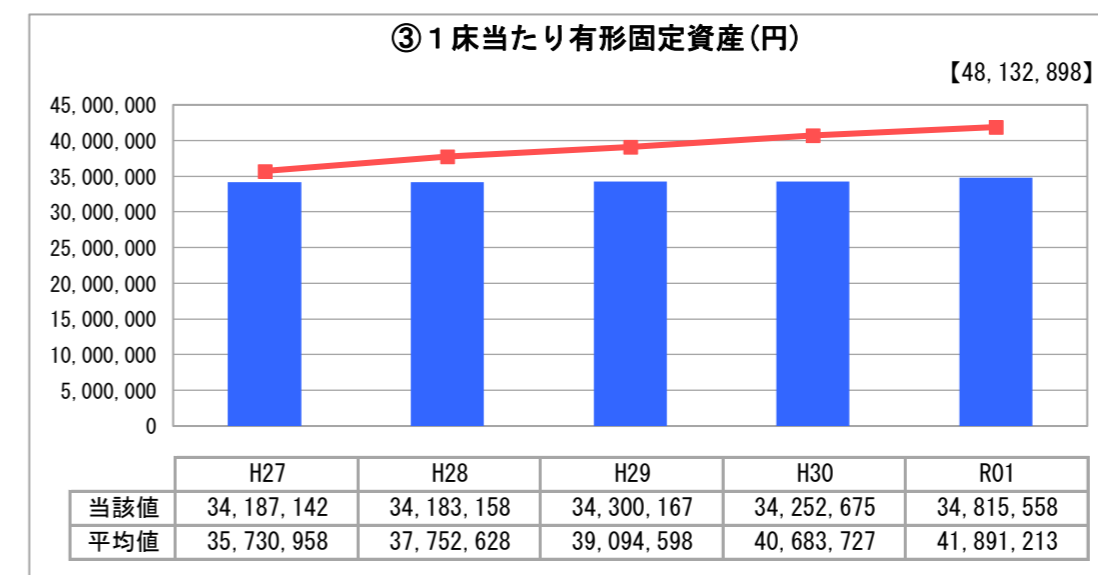
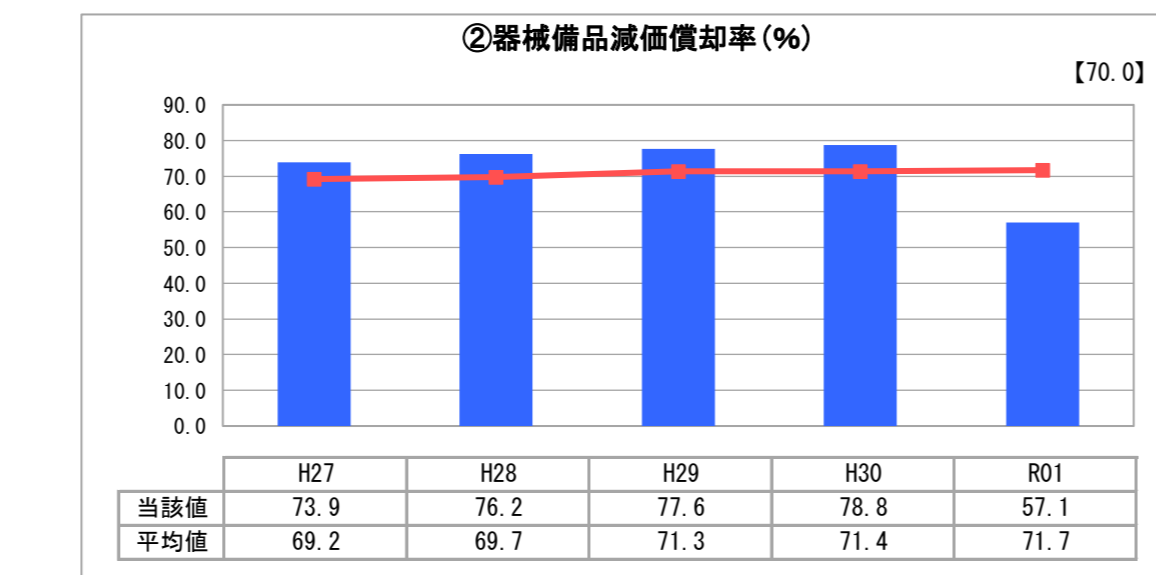
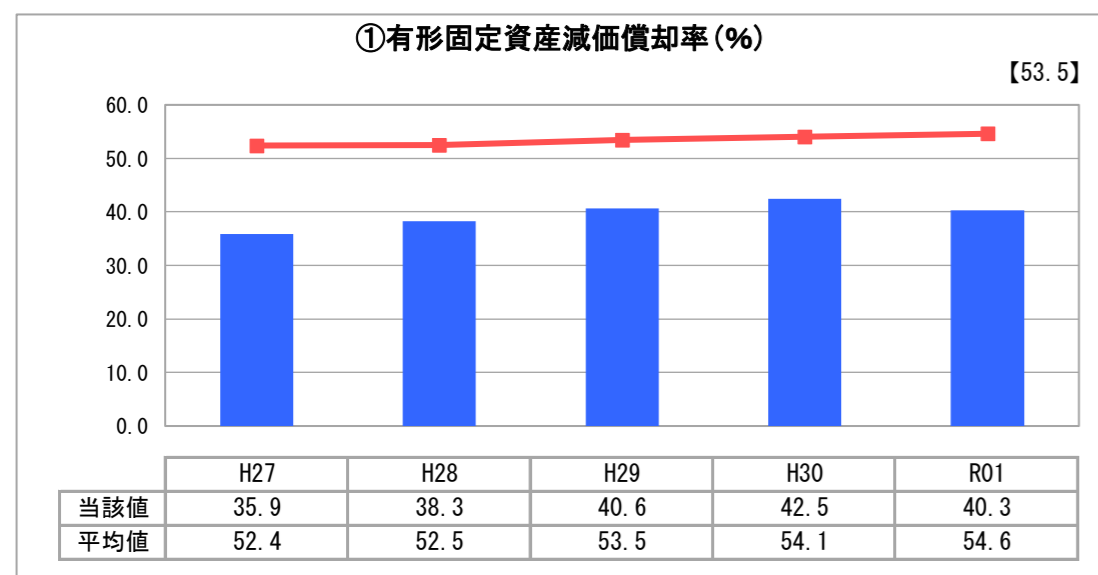
公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## I 地域において担っている役割

「生活医療圏」の中での医療の提供、そのための「地域密着型慢性期医療」の基幹病院として、また、在宅医療・訪問看護・介護支援の拠点として、中核病院・地域診療所等との連携を図りながら、初期診療における総合的な判断と診療を行い、救急については一時救急はもとより、可能な限りの二次救急を行っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率はH28に100%を超えたが、今年度は電子カルテ導入や内科常勤医師の死亡退職による影響が大きく86.3%と平均を下回る結果となっている。医業収支比率についても同様な傾向となっている。病床利用率はH29までは70%以上で平均値を上回っていたが、今年度は外科医師の体調不良による休診の影響等により患者数が減少した。入院・外来とも更なる診療報酬確保へ向けて、施設基準の見直し等を行っていく必要がある。職員給与費対医業収益比率は65.1%と平均を超えた。材料費対医業収益比率は5年連続で平均値を下回っているものの、今後も引き続き材料費の抑制を図る必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

開院から15年目となり、長期的に使用している医療機器の更新は年々増加傾向にあり、R2.1から電子カルテを導入し、その他経費削減のため機器購入を先送りしているものもあることから、それらの計画的な更新はもとより、電子カルテ導入とともに連携する部門システム更新等の必要がある。施設設備についても空調設備の修繕をはじめ経年劣化による設備修繕が増加傾向にあることから計画修繕が必要となっている。

## 全体総括

R2.2に常勤医師の死亡退職により今年度は常勤医師4名体制と厳しい経営となった。入院延べ患者数は前年度比683人増と横ばい状態で病床利用率は計画より3.4%減の65.8%となった。外来患者数は前年度比2,306人の減で、1日平均患者数では入院が1.7人増加、外来は▲6.7人減少した。そのような中、R2.1からはじまった新型コロナウイルス感染症対策が急務となった。今後においては、電子カルテの導入により医療クランクの充実などを進めることにより業務の見直しを推進し、引き続き医師の負担軽減を図りつつ在宅医療・介護支援機能の充実を目指す。また、新型コロナウイルス感染症対策についても通常医療を確保しつつ、引き続き警戒をしていく。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。